



## 平成23年度2学期始業式 校長講話

平成23年（2011年）8月18日  
長野県軽井沢高等学校長 内堀繁利

みなさん、おはようございます。  
いよいよ2学期が始まりました。  
私自身が短い休みだったと感じているくらいですから、きっと皆さんはもっと短く感じていることだと思います。  
どんな夏休みを過ごしましたか。  
充実した夏休みを過ごせたという人もいれば、何もしないうちに休みが終わってしまったという人もいるかもしれません。  
今日から2学期ですから、どちらの人も気持ちを切り替えてしっかりやりましょう。



さて、昨年も同じことを言いましたが、夏という季節は、毎年、平和とか生命とか人間としてのあり方とか、そういうことを考えさせられる季節です。それは、きっと、広島・長崎に原爆が落とされ、終戦を迎えた季節だからだと思います。

特に今年は、3月に大きな地震があり、今も被災地の皆さんが苦しんでいること、また、個人的な話ですが、身内が急に病気で床に臥せってしまったことなどもあって、暑い盛りには、例年にも増してそういったことを考えた年でした。

軽高では、去年から、11月に「いのちの学習」推進月間というのを設けて、すべての先生が、生徒と一緒に「いのち」について考える機会をつくっています。

11月にはまだ少し早いですが、今日は、皆さんと一緒に、いのちとか生き方といったものについて考えてみたいと思います。



先日、被災地の高校生が長崎を訪れ、身内を原爆で失った人の話を聞いたというニュースをテレビでやっていました。その高校生は3月の地震で両親を失ってしまい、そのことをなかなか受け止めることができなかつたけれども、戦後66年、身内を原爆で失いながら生きてきたおばあちゃんの話聞いて、自分もがんばろうという気持ちが湧いてきたと言っていました。

広島に原爆が投下されたのは午前8時15分、長崎は午前11時2分でした。どちらも何か事前に通告があったわけではありません。当時の様子を伝える映画やアニメなどを観ると、電車に乗っている人がいたり、ベンチに腰掛けている人がいたり、仕事をしている人がいたり、今日の天気はどうだろうかと空を見上げている人がいたり、本当に日常の生活を送っている時間帯でした。それが、一瞬にして、広島では14万人、長崎では7万4千人という人が亡くなり、その後、後遺症などでほぼ同じ人数の人が亡くなっています。

3月11日の地震が起きたのは、午後2時46分。このときも、現時点で2万人にのぼるといわれている死者・行方不明者は、こんな大きな地震・津波が来ることは予想せず、いつもと変わらない生活をしていたのではないかと思います。

原爆や地震で亡くなった人たちは、どんな思いを抱いて亡くなっていったのでしょうか。

信濃毎日新聞の一面の左側のところに『山ろく清談』という特集が組まれています。夏の間に長野県を訪れた県外の著名人にインタビューをする企画ですが、最近、その中に、芥川賞を受賞した作家の高樹のぶ子さんの記事がありました。高樹さんはちょうどこ軽井沢の朗読館を訪れていたときにインタビューを受けたのですが、その高樹さんは、今回の震災についてこう言っています：「亡くなった人たちには、死の間際に誰かに言いたかったこと、やっておきたかったことがあったはず。それを考えると苦しくなります。私たちもやがて死にますが、「死ぬまでにこれだけはやりたい」「あいつにこんなことを言っておきたい」ということを、もっと日ごろから考えておく姿勢が大事ではないでしょうか」と。

原爆や震災で亡くなった人たちはきっと、言い残したこと、やり残したことがあったはずで。以前、皆さんに、被災地のことを考えるときに真っ先にしてほしいのは、被災された人たちの身になって、その人たちがどんな気持ちでいるのか想像することだ、と言いました。亡くなった人たちのことを考えるときには、じゃあ自分たちはどうするのかと考えることが大事だと思います。私たちがすべきことは、毎日を「真面目に」とか「真剣に」とか、そういうことよりもむしろ、「大切に」生きることだと思います。ここにいる皆さんは10代ですから、みんな永遠の命が与えられているような気がしていて、時間を無駄にすることが間々あると思います。しかし、夏休みがあつという間に終わってしまったように、たくさんあると思っている時間は、あつという間に過ぎ去っていきます。自分を高めるために行うことにしても、周囲の人たちとの付き合い方にしても、その瞬間瞬間、一つ一つのこと、一人一人の人を大切にして、日々を過ごすことが大事なのだと思います。

何年も前に、ある番組の企画で「最後の晚餐」というのがあって、「これが最後の食事になるというとき、あなたなら何を食べますか」ということを著名人に聞いて、それを映像化するということをしていました。その番組を観ながら、自分なら何を食べるだろうか、とそのときも考えましたし、今も考えますが、ご飯と味噌汁はあつた方がいいとか、味噌汁の具は何かいいとか、焼き魚は秋刀魚がいいだろうかとか、いまだ結論は出ていません。

同じように、明日この世が終わるとか、自分の人生が終わると知ったときに、残された時間に自分は何をするだろうか、何をしたらいいだろうかと考えることもありますが、これも結論

は出ていません。

皆さんならどうですか。ぜひ考えてみてください。

開高健という作家が色紙に好んで書いた言葉に「明日世界が滅びるとしても、今日あなたはリンゴの木を植える」というのがあるそうです。「明日世界が滅びるとしても、今日あなたはリンゴの木を植える」—この言葉は、色々な解釈ができますし、どこから取ってきたものなのか色々な説があるようですが、私も、これで最後だと言われた日に、いつもと同じものを食べ、いつもと同じことができたなら一番いいのかな、と今のところは漠然と思っています。



さて、2学期、3年生は自分の進路を決める大事な学期です。生徒会最大行事、噴煙祭も近づいてきました。

今年の日本テレビの24時間テレビのスタッフが着るTシャツには、表の左胸に「+1」、後ろには「= (イコール)」とプリントされています。その意味は自分で調べてもらうとして、軽高では、去年から、皆さんに「+1 ~Plus One~ みんなでいい学校を創りましょう」と言ってきました。2学期も、これまでと同じように、一人ひとりが「プラスワン」を実行することで、自分を高め、軽高をよりよい学校にしていきましょう。

いつも言うように、私は、皆さんが日々成長していくことをうんと期待しています。

頑張りましょう。

おわります。